

# 令和2年度 教育事業 曾爾ボランティア養成研修



## 1. ねらい

- ①青少年教育施設の概要、運営、事業等について理解する。
- ②ボランティアとして必要となる知識・技能を習得する。
- ③ボランティア活動の内容や役割、対象者等について理解し、活動の楽しさ、自然のすばらしさを体験する。

## 2. 実施日

7月4日(土)～5日(日) 1泊2日

※新型コロナウイルス感染症対応のため、当初の5月から延期して実施した。

## 3. 対象者

高校生以上

## 4. 参加者 / 募集定員

21名 / 20名

(高校生：8名、大学生10名、専門学校生1名、社会人2名)

ボランティアスタッフ 4名

## 5. プログラム (要約)

施設ボランティアとして、自然体験活動を支援するために必要な資質の確保並びに、ボランティア活動の意義や知識・技能の習得を目指し、施設ボランティアの役割やボランティア活動の魅力を伝えることを目的に実施した。新型コロナウイルス感染症対策のもとにあらたな施設の使い方や、野外炊事など様々な野外活動の実施方法なども含めて、ボランティアに技術を「体験」を通して身につけるプログラムを実施した。

## スケジュール

### 7月4日(土) 1日目

オリエンテーション・アイスブレイク  
青少年教育の理解  
ボランティア活動の意義  
青少年教育施設の役割・運営  
野外炊事  
キャンドルファイアー  
青少年教育施設におけるボランティア活動

### 7月5日(日) 2日目

安全管理(救急法含む)  
ボランティア活動の意義と理解  
曾爾ボランティアについて(ボランティア登録)

### 【1日目】7月4日(土)

はじめに、参加者、スタッフと共に2日間のめあてやボランティア養成研修のねらいを共有した。また、新型コロナウイルス感染症対策を伝え、手洗いやうがい、マスクの使用、ソーシャルディスタンスの確保の励行をお願いした。その後、自己紹介やお互いを知る活動を行いながら、アイスブレイクを行った。

皇學館大学 叶俊文氏より、「青少年教育の理解」として、子どもたちの現状や自然体験活動の必要性についてなど、ボランティア活動に必要な基本的な知識等について講義を受けた。午後は、「青少年教育施設の役割・運営」において、青少年教育振興機構や自然の家について理解を深めた。その後「野外炊事」を行い、基本的なやり方を聞いた後に、1人ずつの火おこし、野外炊事を実施した。

夜は、キャンプファイアーの薪組みについて学習し、ファイアーの実際の流れについては、キャンドルを囲みながら、みんなでゲームや踊りを体験した。先輩ボランティアの指導に感心し、早く自分もそのように活躍したいという想いがわきあがったようだ。

最後は、ボランティアによるボランティア活動や事業の紹介が行われ、意見交換をしながら交流を深めた。





ぶことができた。仲間との関わりの中で、お互いに高めあえる有意義な研修となった。「体験を通して楽しく学ぶことができた」「ボランティアが楽しみになった」などの感想があり、これからの期待が膨らむ研修となった。  
(企画指導専門職 高瀬 宏樹)

## 【2日目】7月5日(日)

2日目は、徳田真彦氏(大阪体育大学講師)による安全管理の講習を行った。リスクマネジメントについて理解を進めつつ、とくにリーダーとして対応することが多いファーストエイドに特化して行った。



法人ボランティア登録についての説明を受け、登録を済ませた。

## 6. まとめ

2か月延期して行われた研修はずいぶん感慨深い。受講生も久しぶりに人と会えたことの喜びがあったようだ。心理的な距離が近いためか、意識せず近づいてしまう場面が多く、そのことを注しなければならなかったが多かった。これからのいやが迫りにも意識せざるを得なくなってしまうのだろう。感染症対策は手探りだったが、2日間の講義や演習を通して「ボランティア」の役割や意義を理解し自然体験の基礎基本を学

